

平成27年度

第2回岩沼市総合教育会議

議事録

1. 招集日時 平成27年12月17日(木)午後3時00分
2. 招集場所 岩沼市役所 1階 大会議室
3. 議 題 (1)平成28年度教育予算(案)について
(2)その他
4. 出席者 菊地啓夫市長、佐藤雅晴委員長、小林修子委員長職務代行者、
藤川チユキ委員、南館公雄委員、百井崇教育長
5. 欠席者 なし
6. 出席補助職員
熊谷良哉副市長、鈴木隆夫総務部長、吉田章健康福祉部長、
木皿光夫市民経済部長、高橋伸明建設部長、
奥野光正参事兼学校教育課長、菅井英夫生涯学習課長兼スポーツ振興課
長、森俊幸政策企画課主幹兼秘書係長
7. 傍聴者 なし
8. 本会議の書記
沼田輝明教育総務課長補佐兼総務係長
9. 開会 午後3時00分
10. 閉会 午後3時55分
11. 議事録署名人
小林修子委員長職務代行者
12. 事務局職員
高橋進教育次長兼教育総務課長事務取扱、沼田輝明教育総務課長補佐兼
総務係長、山下真理子教育総務課主査
13. 議事の経過
以下のとおり

高橋教育次長兼総務課長事務取扱

定刻になりましたので、只今より、平成 27 年度第 2 回岩沼市総合教育会議を開会いたします。

開会に当たりまして、菊地市長より御挨拶をいただきます。

菊地市長

それでは、改めまして御挨拶をさせていただきます。本日は、第 2 回総合教育会議にお忙しいところお集まりをいただきまして、本当にありがとうございます。要綱の規定では 11 月中に開催するということになっておりますが、11 月に議会が開催された関係で、申し訳なく思っておりますが、12 月の開催とさせていただきました。

これまでの議会の動き、教育現場の実情等々考える中で、今の話題となれば、山形、岩手等のいじめに対する色々な情報を新聞記事等で目にすることが多くなっており、各市町の教育委員会が色々対応に迫られているという内容が掲載されております。このいじめ問題については、どう対応すべきなのかということを私も改めて新聞を見ながら考えております。私ができるところというのは、組織的に対応していくということになると思います。一個人、一先生、一つの学校ということではなく、皆さんの力を合わせて子どもたちのために、何が一番いいのかを議論して、一番いい方法を取っていきたいと思いを巡らせております。マスコミも正しく書いてくれればいいのですが、そうではない場合もあるようですので、仙台市もこのいじめ問題について大変な苦勞をされたようでした。私としては、皆さんの協力を得ながら、子どもたちのためにという一本に絞って知恵を借りて組織的に対応していきたいと思っております。

今回の総合教育会議は平成 27 年度の 2 回目ということでございますが、今の時期に一番重要になってくるのが、来年度の予算についてです。どのような考え方で臨むのかということが、一番問われておりまして、本日の議題となっております。

これまでの国の動きを見てみますと、色々新しい取り組みが求められてきております。一つは、地方創生であります。将来的には例外なく人口減少に向かうと思っておりますが、

宮城県の場合はその減少傾向が緩やかで、秋田県、岩手県などは相当厳しい自治体が数多く出てくるだろうと言われておりまして、その置かれている環境で人口減少傾向に違いが出てくると思っております。岩沼の場合は、今年の10月末に国から求められている内容を目標としまして地方創生の総合戦略を策定し、一般公開をさせていただきました。それによりますと、人口減少対策として、出産、子育てをイメージした内容のものが戦略の中にでてくる訳であります。国は長期ビジョンに合計特殊出生率1.8という目標を設定しております。これを岩沼市の計画に置き換えますと、2030年には1.6という目標となっております。その数字を達成するための色々な手段が平成28年度からスタートしていくという流れになっておりまして、まちづくりの根本的な部分を地方創生の中で、総合戦略としてあげております。その中の教育の部分に関しましては、教育委員会から色々御意見をいただいて、その中に反映させていきたいと考えております。

もう一つは、これは本当に大きな問題ですが、公共施設等総合管理計画というものを今年度中に完成させるということで、現在策定中でありまして、その中身をみますと、公共施設ですので、下水、道路、橋、学校等の教育施設、市役所等々全部入ってくる訳です。それらの公共施設について、長寿命化、安全対策を進めて行くのにどれくらいの資金と期間が必要になってくるのかというのが、基本的な中身でございます。岩沼市の公共施設は、延べで約14万㎡の建物がございまして、その内の約10万㎡は、教育、スポーツ関連の施設です。それらについて、細かく分析していきますと、建設から30年経過している施設が約半分ございまして、今後、建替え、修繕等が求められてきます。その場合、どれくらいの資金が必要となってくるのか、それから、本当にその施設が必要なのか、という部分について議論された結果が計画として今年度末にできあがります。これは、例外なく公共施設全般にわたるものでございまして、それらの施設を全部建替えると、約1500億円掛かるという試算が現段階で出ております。計画では、30年～40年のスパンで全て建替えることとなっております。1年当たり、35億～50億くらい費やさないと施設の新築、更新ができないという数字になっておりまして、これを今から

現実的なものに修正して、来年の3月には、形を出したいと思っております。

今お話しさせていただいたものをまとめますと、人の部分の地方創生、建物の総合管理計画を策定して、人と建物の安全安心を考え、持続的にまちが発展して行けるように取り組んでいこうというのが、平成28年度ということになります。それらについて、来年の1月12日からの任期でスタートいたします新しい議員の皆様と議論をさせていただきたいと思っております。

平成28年度予算については、現在我々が策定中ですが、教育関連の予算を作り上げていく中で、色々と御提案をしていただき、それらを現実的なものに作り上げていきたいということで、本日の会議の開催目的とさせていただきたいと思っております。

御意見、御提案をいただいたものについて、すべてできるということであればいいのですが、今から予算をつめていく中で、何が優先順位として高いのかということも含めまして、議論をする予定でございます。私自身の考えとしましては、教育を最優先に考えておりまして、学校施設における子どもたちの安全安心、そして、学ぶ環境としてふさわしいものに近づけていきたいと思っております。本日は会議の中で、色々と御意見を賜りながら、平成28年度予算に反映させていきたいと考えておりますので、忌憚のない御意見をいただきたいと思いますと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

高橋教育次長兼総務課長事務取扱

続きまして、教育委員会を代表しまして、佐藤教育委員長よりご挨拶をいただきます。

佐藤委員長

それでは、一言ご挨拶を申し上げたいと思います。本日は、菊地市長様には大変お忙しい中、第2回岩沼市総合教育会議を開催いただきまして、誠にありがとうございます。

この4月に、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部が改正されまして、岩沼市教育委員会といたしましても、直接市長さんに御意見等をお話しさせていただく機会を得たということは大変意義のあった改正だったと前向きに捉えております。第1回

総合教育会議の中でも申し上げさせていただきましたが、教育環境整備につきまして、いち早く検討いただき、補正予算の中で実施に移していただいたということは大変ありがたいと感じております。また、多くの保護者の方々から教育最優先にまちづくりを進めようという市長の姿勢に大変ありがたいという感謝の言葉を数多くいただいているということをこの場をお借りいたしまして御報告申し上げたいと思います。限られた予算の中で最大限の努力をしていただきますことに感謝申し上げまして、今後とも教育の振興と青少年の健全育成に御尽力賜りますようお願い申し上げますが大変簡単でございますが、御挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

高橋教育次長兼総務課長事務取扱

それでは協議に入らせていただきますが、総合教育会議の議長は、運営要綱第4条の規定によりまして、市長が務めることになっております。ここからは菊地市長に会議を進めていただきたいと思います。それでは、よろしくお願いいたします。

菊地市長

それでは会議を進めたいと思います。はじめに、運営要綱第6条第2項にございます議事録署名人を決めさせていただきます。今回は、小林委員長職務代行者にお願いしたいと思いますが、皆様いかかでしょうか。

構成員

異議なし。

菊地市長

それでは、議事録署名については、小林委員長職務代行者にお願いいたします。よろしくお願いいたします。

次に、議題に入らせていただきます。議題の(1)平成28年度教育予算(案)について、協議をしたいと思いますが、事務局から内容について説明をお願いいたします。

高橋教育次長兼総務課長事務取扱

それでは、平成28年度教育予算(案)の編成に係る方針の概要について御説明をさ

せていただきたいと思います。教育委員会といたしましては、市の編成方針を念頭におき、いわぬま未来構想に掲げる4つのまちづくりの柱の一つである、生涯現役で心豊かな「人」づくりを受けて策定しております教育基本方針、教育大綱の具現化に向け、創意工夫を加えながら、学校の教育環境、生涯学習環境等の向上に向けた各種施策の展開、安心して安全に使用できる施設環境の整備など、人的、物的両面にわたりまして、先を見据えたうえでの編成が基本となっております。

まず、教育総務課関係でございますが、平成27年度においては、学校施設の安全に配慮した維持修繕、教材備品や管理備品の整備をしてきております。また、トイレの洋式化については、その整備の加速化ということで、小学校の低学年フロアを優先して進めてきております。平成28年度においても同様に、安全に最大限配慮した中で、トイレ洋式化を含めた学校施設の維持修繕、備品等の整備に努めるほか、学校施設の長寿命化計画を策定するにあたりまして、施設の健全度などを把握するための調査を実施してまいりたいという風に考えております。学校教育課、生涯学習課、スポーツ振興課関係につきましましては、それぞれ担当課長の方から御説明を申し上げたいと思います。

奥野参事兼学校教育課長

それでは、学校教育課の平成28年度予算に係る編成方針等について御説明申し上げます。「夢を育み愛のある教育」の一層の充実、学校の教育環境の向上に向け、教育の質の向上に必要な施策の展開と人員の確保・配置を行うという方針でございます。

主なものとして次の4点挙げさせていただきました。①小中学校指導助手、特別支援指導助手、特別支援教育支援員の人員増、教員業務アシスタントの新設、②学力向上に向け外部人材、主に大学生を活用しての学び塾の開催、③外国語指導助手の通年配置、そして、岩沼市の教育を特徴付ける④総合的な学習の時間、特色ある学校づくりの継続、以上4点が主な施策、方針でございます。

菅井生涯学習課長兼スポーツ振興課長

それでは、はじめに生涯学習課の方針について御説明申し上げます。誰もが学べる生

生涯学習環境の向上のため、市民のニーズを踏まえた学習機会の確保と施設・設備の適切な管理運営を行うことにしております。生涯学習課では、第2次生涯学習推進計画に基づきまして、市民の生涯学習の効果的な事業を実施すべく、平成28年度も継続的に展開することにしております。中でも、学校と地域の協働教育の実践、支援に向けた放課後子ども教室や、ジュニアリーダーの育成、コラボスクール、家庭教育などの支援事業を実施することにしております。平成27年度におきましても、多くの子どもたちに積極的に参加いただいております。また、市史編纂事業につきましては、各編集部会の御協力をいただきながら、資料の記録、収集に努めるとともに、市史の執筆、編集、そして、年次計画に基づいた近代資料編の刊行に努めたいと考えております。

次に、スポーツ振興課の方針についてです。スポーツ環境の向上のため、施設・設備の適切な管理運営と効率的な管理運営の検討を進めることにしております。スポーツ振興課では、スポーツ団体の育成と支援を行い、団体の活動を通してスポーツの推進を図るとともに、連携や協働により体育施設を有効に活用し、来年度は第25回記念大会となる「いわぬまエアポートマラソン大会」などの開催を通して、市民の健康で持続可能な体力づくりに努めたいと考えております。以上でございます。

菊地市長

只今、教育総務課から、スポーツ振興課まで御説明がございましたが、その中で確認をしたいということがございましたらお願いいたします。

熊谷副市長

以前の教育委員会所管の会議であれば、このような出し方でも良かったのかと思いますが、市長が主催するという形になりましたので、説明を加えさせていただきたいと思っております。いま御説明のありました平成28年度教育予算編成に係る方針等ではありますが、申し訳ございませんが、現時点においては、あくまで案であるということを御念頭においていただきたいと思います。例えば、学校教育課から要望として出ております指導助手等の増員とか、教員業務アシスタントの新設という表現がございますが、これについ

では、予算の絡む話ですので、なかなか難しいのではないかと執行部側としては認識しております。現在平成 28 年度の予算要求の段階で、ヒアリングをやり取りしているという状況でございます。また、生涯学習課からは、市民会館大ホールの客席改修とありますが、これについても全面的に改修するとなれば、億を超えるお金が掛かってくるというような見積りがあるようでございますので、これについても執行部側とすれば考えざるを得ないということでございます。各課の事業として、岩沼市の子どもたちの教育のためにということで、一生懸命考えていただいておりますが、どうしても予算の縛りがありますので、あれもこれもと言われても、なかなか執行部としてはうんと言えない部分があるということでございます。申し訳ないのですが、あれか、これかとか、優先順位を付けて提案をしていただかないと、御期待に応えられないような状況にはあるということをご承知おきいただきたいと思っております。できれば、こういう場で優先順位と申しますか、こういうものについてはもっと力を入れるべき、というような御発言等いただければありがたいと思っております。執行部側が出している資料でこのように書いておられますと、その通りやられるんだらうなと普通は思ってしまうかもしれませんが、まだ途中というところをお含みおきいただきまして、御了承いただきたいと思っております。

今までは、復興絡みの関係で、予算が多く流れてまいりました。しかしながら、今後については、通常予算ベースで我々も考えていかなければならないところがございますので、その辺の予算についても精査しながら、公共施設の長寿命化についても、少なく見積もっても年額 35 億とか、物価スライドを考えれば 40 億くらい掛かっていくだろうというような重い宿題を抱えての市政運営になりますので、そのような点を御承知いただいたうえで、御議論いただければという風に思います。よろしく願いいたします。

菊地市長

厳しいことを言うようですが、いまの内容が現実ということですが、しかし、色々と議論して、方向性をしっかり出しておくということは必要なことですので、追々、計画の中に盛り込んでいきたいというような考え方で、今日の会議を進めたいと思っておりますので、

色々と忌憚のない御意見をいただければと思います。よろしく申し上げます。

佐藤委員長

只今、副市長さんからお話しいただいたことについて、教育委員としてもずっしりと感じておりまして、その中でも次の3点についてお願いできればと考えております。

1点目は、学校の教育環境の改善です。それに向けた各種の施策ということに力を入れていただければ大変ありがたいという風に思います。特に、トイレであるとか、給食調理施設、設備については、いち早く改善に着手をしていただいているところではございますが、やはり、学校は勿論ですが、その他の生涯学習施設のトイレとか、アメニティの部分については、出きるだけ一般家庭並みに改善していただければありがたいと思います。義務教育の子どもたちは体調が悪いからといって自分で家に帰ることはできない訳でありまして、日常生活の中と違うことを学校でしなければいけないというのは、言葉は非常に悪い訳ですが、拷問に等しいと思っております。子どもたちにとっては大変苦痛になるのではないかと思う訳です。そういう意味では、学校も、その他の生涯学習施設、社会教育施設も、早く一般家庭並みに改修していただければ大変ありがたいと考えております。

2点目は、学校の教職員の多忙化の解消についてであります。これについてもお願いせざるを得ないところまできているのかなと思っております。市長さんも御理解いただいていると思う訳ですが、学校、家庭、社会というのは、教育を支える3つの領域であると言われてきた訳ですけれども、それぞれの領域において、それぞれの役割を果たしているかという、今はなかなか果たしていない状況に陥りつつあるのではないかと思う訳です。それぞれが役割を果たすことによって、子どもたちの成長であるとか、発達が図られているという風に言われていた訳ですけれども、今、その領域の役割を果たしているのは、もしかしたら学校教育しか無いんじゃないのかなという感じがしております。本来、家庭教育の中で果たさなければいけないこと、それから、地域社会の中で学んでいかなければいけないことも、学校教育の中でやらざるを得ない状況に陥ってい

るのではないかと思います。先日聞いたお話しですが、若干の非行がありまして、警察に補導されたお子さんを親が引き取りに行かない、しょうがないから、学校の先生が行って、事情を説明して引き取ってきたというようなこともあったようです。そういう意味では、しつけであるとか、社会の中でどう生きていくかという方法についても、学校の中で教えなければいけないというような状況が非常にあるのではないかと思います。ですから、先生が本来教える業務に集中できない状況が今の学校教育の中にあるということも御理解いただいて、学校教育課の平成 28 年度予算の中で、教員業務アシスタントの新設という項目がございますが、こういうことも、教えるという本来の業務を遂行するためには、学校の中でも、先生が役割を分担して行っている総務的な業務をしていただくスタッフも今からの学校を考えるうえで、非常に重要になってくるのではないかと考えております。そういう意味で、御提案いただいておりました、教員業務アシスタントの配置というのは、是非、宮城県教育委員会の中で、岩沼市が先鞭をつけて行っていけば、派生的な効果、副次的な効果、それから、教育に今後与える効果というのが非常にあると思っております。

それから、3 点目ですが、社会の要請と本来地域社会の中で、私たちが生活していくのは、どういう形がいいのか、あるべき姿を長期計画の中でシミュレーションして、学習活動を正しい方向に戻すというような施策も今後必要ではないかと思う訳です。今、教育委員会の色々な事業や施策を見ていると、確かにお蔭様で、学校教育現場というものは充実しておりますが、家庭に対するアプローチ、社会教育全体に対するアプローチを推し進めていく社会教育主事等の専門職の配置は果たして、これで満足できる状態にあるのだろうかと考えておまして、学校教育を良くするためには、家庭教育に対する援助、社会教育、地域社会に対する援助をしっかりと、本来の機能を回復していかないと学校教育も円滑に進められないという状況まできているのではないかと思う訳です。この辺についても御考察いただきまして、平成 28 年度の人員配置についても考慮していただければありがたいと思います。どうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。

菊地市長

その他、ございますでしょうか。

小林委員

只今、委員長がお話ししてくださったこと、私もそのとおり同感でございまして、私たちの総意と言ってもいいくらいに思います。私も現場で、長年勤めてきておりまして、それから、委員会にお世話になっておりますので、学校の立場から申し上げさせていただきますと、特に学校教育課さんで出している中学校の指導助手、特別指導助手、また、教員業務のアシスタントの新設ということについて御提案していただいておりますが、現場で働く者にとっては、大変ありがたい予算であると思っております。市長さんからもお話しいただきましたが、子どもたちのいじめの問題だとか、非行の問題などが社会の話題になっておりますが、そういうところに対応するのは、予防が第一で、そのためには、教職員のゆとりというのが一番大事だと思います。子どもたちに、ゆとりを持って接するという心のゆとりと、時間のゆとりと、仕事のゆとりと、そういうことに対する支援があれば、なお、きめ細かく子どもたちに対応できるのではないかと考えておりますので、学校教育課さんが一番目に挙げている人員の増とか新設については是非お願いしたいと思います。先程、副市長さんから厳しい御発言がありましたので、これを削られたら困ると思っております。私は、この施策に対する予算は削ってはいけない予算ではないかと思っております。ハード面だけが整っていても、ソフト面が整っていないと、結局子どもに還元されていかないところがございますので、それを使いこなす能力を持った人ということが大事だと思います。その能力を発揮させるための支援というように思いますので、この点については是非お願いしたいと思います。

菊地市長

その他、ございますでしょうか。

藤川委員

佐藤委員長と小林先生がおっしゃったとおり、学校もそうですし、地域もそうですけど、人材ということもなくしては、教育というのは成り立たないと思います。教職員は、新採であろうと必ず1年目から担任を持ちます。その担任を持ちながら自分自身が教員として成長していく、また、成長を手助けしてくれる先輩の先生方に余裕がなければ教員としていい人材も育っていかないということもあります。今、盛んに持続可能な何々ということが言われていますが、これは、岩沼市内だけではなく、県全体、日本全体で継続可能な教育というのは、ひとえに教員がきちっと育っていく、そして、そこで活躍できるという人材のサイクルということが欠かせないものだと思いますので、是非、少しでも先生方の時間を作っていただけるようなサポートを岩沼市からしていただけたらと思います。小さなことかもしれませんが、その小さいことを一人の教員が全てやるとなると大変多忙になりますので、その小さな手伝いをしてくれる、そういう人員を是非学校に入れていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

菊地市長

その他、ございますでしょうか。

南館委員

今までお話を聞かせていただいておりますが、まったくそのとおりだと思います。ちょっと話がずれるかもしれませんが、お金の掛け方に関しては、色々な施設の改修等ございますが、怪我をしないような環境を提供してやるということは必要だろうと思います。逆にいえば、怪我をしない環境があるのであれば、後回しにしてもいいのではないかと思っております。もっと違う方にお金を掛けて、岩沼市独特の子ども育成プログラム等を時間が掛かってもいいから模索していくべきではないかという風に思っております。その根拠は、今、一人親の割合が高くなってきており、全てではありませんが、経済的事情から、塾にいけない、学校に行っても授業についていけない、そうすると学校に行ってもつままない、不登校になる、そして、いじめに繋がる、最後には、自死を選ぶという大変痛ましい流れが、毎日のように全国で起きている訳です。その対策

というのは、やはり教育だろうと思っております。経済的に困窮しているとしても、この子はこういう正しい心を持った、思いやりを持った子なんだということを皆で分かってあげて、それを認めてあげるということになれば、非行、犯罪、いじめ等は少なくなっていくのではないかと思います。そういうことにお金を掛けていって、そこを目指していくということが必要ではないかという風に思っております。現在、岩沼市では学び塾という非常にいい施策が行われております。この参加者をもっと多くしていただいて、今言ったような方々にそこで勉強してもらって、せめて高校を卒業して、自分で仕事について、自活していき、親の面倒を見るといったようなことになるように、一つの方法として、この学び塾をもっと応援していくべきではないかと思っております。それから、この学び塾の講師は、地元の中学校を卒業した学生があたってくれることが多いと聞いております。地元を見直す、地元に戻ってくるという機会にもなりますし、地域の子どもとその卒業生との繋がり、コミュニケーション、ネットワークも取れていき、一石二鳥だろうという風に思う訳であります。

百井教育長

今の話しに尽きると思いますが、教育は人が人に対する営みだと思っておりますし、人が基本だと思えます。皆様方の話の中に余裕という言葉があって思い出したことがありました。私が若い頃の話ですが、教室で採点している時に、ベテランの先生が来て、あなたの授業はこうんじゃないかと改善点を指摘されたことがございました。私も教室で採点できる環境にあったということと、それを見に来る先輩教員がいたという、そういった余裕があったのかなという気がいたしました。教員にとって、時間の余裕、心の余裕があれば、子どもに対する接し方や対応にゆとりが生まれます。そのゆとりがなくなった時に体罰が起りやすいということも言われております。そういう意味では、私も多忙化解消ということで、会議の数を減らすようにしたり、行事についても精査して行うように指導しておりますが、限界があるというのが現状だと思っております。

また、国の定数の配分にも私は不満がございます。学級数に対して何名という職員配

置人数が定数法で決まっていますが、その定数法の数値のあり方にちょっとおかしなところがあると感じておりまして、そういったことにも私たちは声をだしていかなければならないと思っておりますし、近年は人員削減という流れできていますが、逆行していると感じております。色々な子どもたちの行動の問題などは、人手が必要と思っておりますし、未然防止も前もって関わるといふ人手が必要になってきます。岩沼市は他と比較してもそういった面ではかなり進んでいると思っておりますので、職員が子どもを観察でき、関わるといふ環境を作っていきたいと思っておりますし、さらに改善できるところは改善しながら取り組んでいきたいと思っております。

菊地市長

その他、ございましたらお願いします。

小林委員

先程の市長さんのお話しの中で、公共施設の総合管理計画というものを策定中であるということがございましたが、大変うれしく思いました。私自身も教育委員会内で管理している施設がかなり多くあって、その施設がどのように必要で、どんな活用をされているのかというところについて、見直し、精査が必要ではないかを感じているところがございますので、この管理計画の中で、教育委員会で管理している施設についても詳しく見ていただいて、今後の見通しとか、活用方針についても再度点検していただければありがたいと思います。

菊地市長

委員の皆様には、一通り平成 28 年度に向けて、これからの教育についての御意見をいただきました。予算編成につきましては、今から具体的につめていく訳でございます。当然、学校施設についても急がなければならない部分がいっぱいある訳で、それらを含めて、また、先程のアシスタントの話等々、岩沼独自で進めていってもいいのではないかという御意見もいただきましたし、これからは、子どもたちの数が減っていくので、将来を見据えた形で方向づけをしたいということもございますので、内部でもう少し協

議をさせていただきたいと思います。

また、教員の数も必要であればどんどん声をあげていかなければいけないですし、岩沼だけで、応じきれない部分もございますので、しっかり県等へ色々な会議の場で言っていきたいと思います。今の国の流れの中に、今までの高齢者施策中心から、子ども、子育てというのが中心に入ってきております、それが、これからどういう形になるのか、今後を見ながら予算付けをしていきたいと考えているところです。高齢者も大事ですが、私も子どもを中心に考えていきたいと思っておりますので、その辺も考慮しながら、新しいまちづくりに取り組んでまいりたいと思います。委員の皆様も何かありましたら、御意見等をいただければありがたいと思います。

その他、ございましたらお願いします。

無ければ、議題の（1）平成 28 年度教育予算（案）については以上で終了したいと思いますのですが、いかがでしょうか。

構成員

はい。

菊地市長

ありがとうございました。それでは議題の（2）その他に入らせていただきたいと思います。皆様方から何かございましたら、お願いいたします。

ございませんでしょうか。事務局の方からも無いようですので、これをもちまして、協議を終了します。御協力ありがとうございました。それでは、事務局に進行をお返しします。

高橋教育次長兼総務課長事務取扱

活発な協議大変ご苦勞様でございました。その他でございますが、平成 27 年度の総合教育会議は、原則 2 回ということにさせていただいております。今回が 2 回目ということで、年度内の開催は最後とさせていただきますが、緊急事項等が生じた場合については招集させていただく場合もございますので、その際はよろしくお願ひしたいと思ひ

ます。

その他皆様方から特に無ければ、以上をもちまして、平成 27 年度第 2 回総合教育会議を閉会させていただきたいと思えます。委員の皆様大変ご苦勞様でございました。ありがとうございました。

(午後 3 時 55 分閉会)